

「ブラックホール物理と星・惑星科学」 —ブラックホールの観測と惑星探査—

最近のノーベル物理学賞受賞研究をはじめとしてブラックホールに関する研究の話題が溢れている。日々進歩するブラックホールの研究を身近なものとして、また、ブラックホールに関連する日本の研究が世界をリードしていることを解説する。また、宇宙として最も身近な対象は惑星であろう。特に、日本では、「はやぶさ2」をはじめとした惑星探査機が数々の成果を挙げ、多くの一般の方の大きな関心を掴んだ。本講演会においては、二つの話題に関わる研究者が、その最先端の研究状況と日本の活躍を語る。

日時: 2023年3月12日(日) 13:30 ~ 16:00(開場 13:00)
形式: 対面とオンラインを併用したハイブリッド形式
場所: 【対面】立教大学池袋キャンパス太刀川記念館 3F
太刀川カンファレンスルーム
東京都豊島区西池袋3-34-1
(<https://www.rikkyo.ac.jp/access/ikebukuro/>)
※入構は、大学へは学院北門からお願いします。



会場へのアクセス

【オンライン】Zoom/webinar (学会ホームページにて事前登録が必要)
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、対面開催の予定を変更させて頂く場合があります。

対象: 中学生以上・一般向け
参加費: 無料
定員: 【対面】80名(事前登録制・先着順)
【オンライン】1,000名(事前登録制・先着順)
主催: 公益社団法人 日本天文学会
共催: 立教大学理学部



日本天文学会ホームページ

※参加申込方法は日本天文学会ホームページ
(<https://www.asj.or.jp/jp/epo/lecture/>) をご覧ください。

プログラム

13:00 会場

13:30 開会

13:30-13:40 挨拶 日本天文学会・天文教育理事 富田晃彦(和歌山大学・教授)

13:40-14:40 「X線で見えるブラックホール」 山田真也(立教大学理学部准教授)

日本の人工衛星を用いたX線観測は約40年以上前から始まり、来年度、最新のX線観測衛星 XRISMが打ち上がる予定です。XRISM衛星の主検出器である極低温X線マイクロカロリメータの開発担当者として、開発状況からブラックホールサイエンスの話まで、わかりやすく紹介します。

15:00-16:00 「はやぶさ2の小惑星旅行」 亀田 真吾(立教大学理学部教授)

はやぶさ2は2020年12月に地球に小惑星のかけらを持ち帰りました。打ち上げは2014年12月であり、6年間の長い旅となりました。この計画の目的/内容について、観測装置の開発担当者としての実体験(裏話)も含めて、ご紹介させていただきます。

16:00 閉会